

## 18. 優良樹種・品種の選抜に関する試験

### (1) トリネキサパックエチル剤葉面散布によるスギ花粉抑制試験

土屋大二・田野倉久雄

#### 〔目的〕

花粉症の罹病率が年々増加する中で、スギ花粉を抑制するため、雄花の少ない西多摩2号などのスギクローンの植栽による対策が現在進められている。しかし、これらの方法は短期間に効果が現れないため、花粉症対策としては長期的な対策といえる。

そこで、短期間にスギ花粉を抑制する薬剤散布の方法として、トリネキサパックエチル剤を用いてスギ雄花の抑制試験を実施した。なお、本試験は鳥取大学農学部の本間 環氏らとの共同研究として実施している。

#### 〔方法〕

##### 1. 試験区

東京都西多摩郡日の出町平井地内の当該苗畑、スギ5年生(各5本)を供試した。

##### 2. 花粉抑制処理の時期

ジベレリン処理を2002年7月18日に、トリネキサパックエチル剤散布を同7月26日に実施した。

##### 3. 処理方法

スギ試験木より各5本の枝を供試し、ジベレリン水溶液(100ppm)を葉面散布した。次いで散布後9日を経過してトリネキサパックエチル剤(100・50・25ppm)を葉面散布した。

##### 4. 効果判定

スギ雄花が形成される12月に、試験木から枝を切り取って実験室に持ち帰り、雄花と雌花の個数及び葉の重さ等を測定した。

#### 〔結果〕

試験地の概要を表 1と写真 1に示した。雄花の着花量と葉1g当たりの重量を図 1に示した。対照区の1本当たりの平均値 345 個に対し 100ppm では 209 個と少なく、50ppm と 25ppm 区では増加した。スギの葉1g当たりの重量においても同様であった。

雌花の着花量と葉1g当たりの重量を図 2に示した。対照区の1本当たりの平均値 71 個に対して、100ppm 区、50ppm 区、25ppm 区とも殆ど着花がなく抑制効果が認められた。スギの葉1g当たりの重量においても同様に抑制効果が認められた。

この結果から、雌花に対し効果が認められたことは、雄花に対しても薬剤散布が的確な時期に処理されれば効果があると考えられる。スギの雄花は6月から7月にかけて形成され、雌花は少し遅れて形成されるが雌花の形成の時期に処理したことを裏付ける結果となった。

以上から、今年度はトリネキサパックエチル剤の散布時期が遅れたことで、雄花を抑制できず雌花を抑制した結果となった。

来年度は適確な時期に処理を実施して、雄花の抑制状況を調査するとともに、樹幹注入処理による抑制効果を検討していく。

表-1 試験地の概要

樹種:スギ 配置図

対照区	無処理	100ppm	50ppm	25ppm
対照区	無処理	100ppm	50ppm	25ppm
対照区	無処理	100ppm	50ppm	25ppm
対照区	無処理	100ppm	50ppm	25ppm
対照区	無処理	100ppm	50ppm	25ppm



写真 1 試験地での処理状況

対照区:ジベレリン処理 無処理:無処理

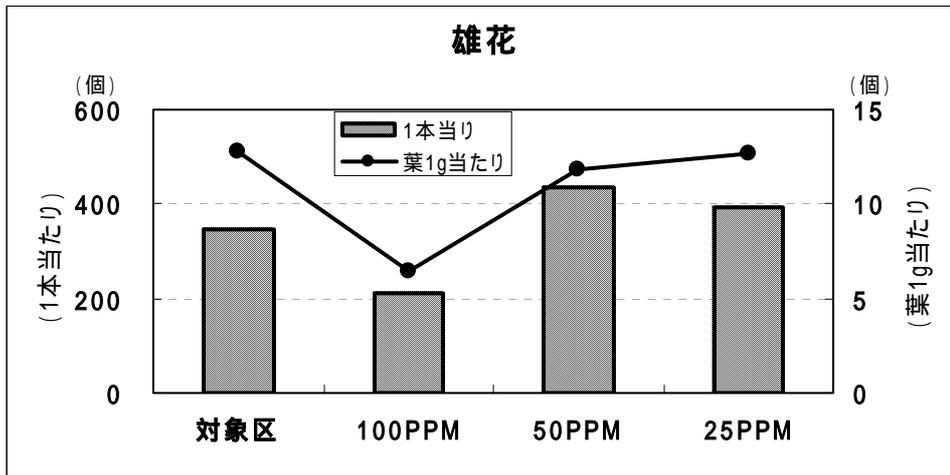


図 1 スギ雄花の1本当たり着花量と葉1g当たりの着花量

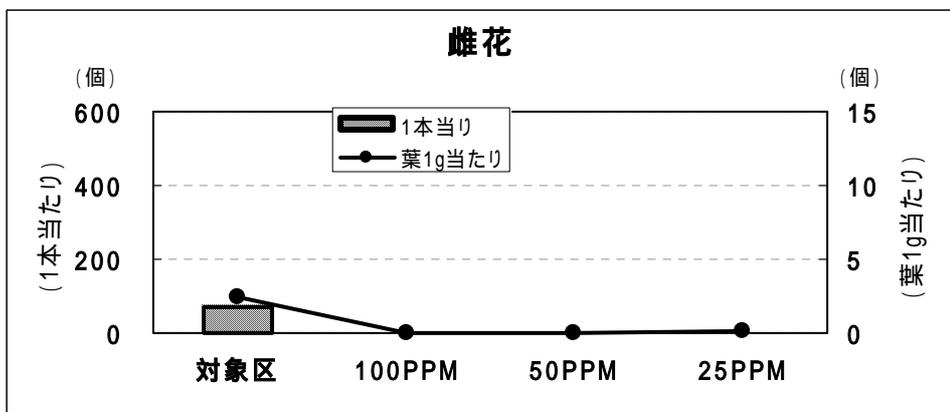


図 2 スギ雌花の1本当たり着花量と葉1g当たりの着花量